

まずは、
わが家の備えと点検を！



- 「非常持ち出し袋」を備えているか
最低3日分の食糧・水・生活必需品を準備しましょう。（飲料水は1人1日3ℓが目安）
- 住宅の耐震性は大丈夫か
住宅の耐震診断を受けて、危険性の高い住宅は専門家に依頼して補強などをしましょう。家具の固定や、ガラス飛散防止フィルムの設置などもしっかりと。
※木造住宅の耐震診断にかかる費用の一部を補助しています。
詳しくは、市庁舎別館建築住宅課、各総合支所建設課へ。
- 家の周囲は安全か
ブロック塀や石塀が倒壊しないよう点検と補強をしましょう。プロパンガスのボンベもしっかり固定を。
- 避難場所・危険個所を知っているか
地域の避難場所や危険個所を確認し、家族がはぐれたときのために、集合場所を決めておきましょう。
- 防災の話し合いをしているか
家族で防災会議を開き、日ごろの備えと、災害時の役割分担を決めておきましょう。

9月1日は防災の日

8月30日～9月5日は防災週間

自らの身の安全は自らで守る！



9月1日は「防災の日」。この日は、今から83年前の1923（大正12）年に発生した関東大震災を教訓に、防災を見直すために定められました。

いざというとき、大切な命や財産を守るためには、日ごろの危機管理が大切です。皆さん一人ひとりが、もう一度身の回りで起こる災害について考え、「自らの身の安全は自らが守る」という防災意識のもと、災害時に適切な行動がとれるよう、防災力を高めておきましょう。

地震が起こったら

●とにかく自分の身を守ろう！

丈夫な机の下へ身を隠し、その脚部を押さえましょう。さらに、ドアを開けるなど脱出路を確保して、懐中電灯などの明かりを確保しましょう。



屋外にいるときは、落下物に注意しながら、安全な場所へ避難しましょう。ブロック塀には近づかない！

台風が接近したら

●最新の気象情報を入手して、早めの対策を！

突然やってくる地震と違って、台風や豪雨は気象情報などで襲来時期や規模が予測できます。



台風などが接近する前に、雨どい・側溝の詰まりや飛散物の確認、住宅の補修をおきましょう。台風などが近づいたら最新の気象情報に注意して、避難準備などの対策を立てましょう。

被害の拡大を防ぐ行動を

●火災の拡大を防ぐ！

地震が発生したら、火元の確認と初期消火に努めましょう。火が消せる場合はすばやく、余裕がない場合はまず身の安全を確保し、揺れがおさまってから火の始末をしましょう。

災害による停電が復旧したときに、使用中だった電気器具から出火する「通電火災」を予防するため、避難の際は、電気のブレーカーを落としましょう。

●交通の混乱を防ぐ！

自動車などでの避難は、緊急車両の妨げとなり混乱を招きますので、徒歩で避難しましょう。

●間違った情報を防ぐ！

災害時は、うわさやデマに振り回されることがあります。報道機関や行政機関の正しい情報で行動するため、携帯ラジオなどを備えておきましょう。

助け合いの行動を

●みんなで協力して応急救護・初期消火を！

隣近所で声を掛け合い、お互いの安否を確認しましょう。けが人がいるときは、協力して応急救護・応急手当をしましょう。



火災が発生したら「火事だ」と大声でさけび、周りの人に助けを求めましょう。119番通報し、消火器やバケツリレーなどで初期消火に努めましょう。火が天井まで燃え移ったら初期消火は不可能です。燃えている部屋の窓・ドアをすばやく閉め、早く逃げましょう。

●災害時要援護者への手助け・心配りを！

お年寄りや身体の不自由な方、妊婦の方や子どもたちは、避難の際に手助けが必要です。自らの身の安全を確保するとともに、近所の手助けを必要とする方への援助が、災害時には大いに求められます。